週　刊　水　産　新　聞

平成 22 年7月5日（月）掲載

Weekly Paper ◆ Suisan Shinbun
週刊水産新聞
平成22年（2010年）
第 609 号
7月5日
毎週月曜日発行
発行所／株式会社 水産新聞社
〒060-0061　札幌市中央区南1条西8丁目9番地1　エコネットビル5階
電話(011)210-5073　FAX(011)210-0947
（平成10年2月25日第三種郵便物認可）
URL:http://www.suisan.jp/ E-mail:sapporo@suisan-np.co.jp

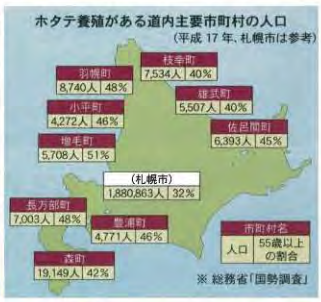
紙面
②スルメイカ 各地の漁況
④⑤特集・ワカメ消費拡大
⑦秋サケ消流動向
⑨北るもいエビ札幌量販に直送
⑭道北日本海 ホタテ採苗好転
⑮釧路棹前 全単協が日程消化

派遣会社通じ人手を確保

留萌のホタテ養殖

漁業では初 30代など30人

浜の人手不足が進む中、道北日本海・新星マリン漁協のホタテ養殖漁家は今春、派遣会社を通じて稚貝出荷などの作業員30人を確保した。作業員は派遣会社の本・支店を通じ、札幌をはじめ、遠くは福島県などから集められ、留萌の宿舎を拠点に2カ月余、作業に当たった。本道の浜でオカ回りのアルバイトを、派遣会社を通じて確保することは、極めて珍しいが、少子高齢化で漁村の働き手が減少、都市部では非正規雇用の雇い止めなどで失業者が増加、人材が欲しい浜と、働き口を求める求職者のニーズが合致した格好だ。人手不足のオホーツク海などでも、派遣の輪は広がるか。



道北日本海のホタテ稚貝出荷作業。漁家一人に20人以上の働き手が必要で、人不足に陥った留萌管内鬼鹿地区では、人材派遣会社を活用した

川森泰雄部会長

氏家均さん

同漁協鬼鹿地区では、稚貝出荷が始まる3～5月が1年で最も忙しい。この時期、1漁家あたり少なくても十数人、多くて20人以上の作業員が必要となる。ホタテ部会の川森泰雄部会長は「仕事が多くて漁家の家族だけでは手が回らなくなる」と説明する。

各漁家はこれまで、以前から採用している地元のアルバイトのほか、建設会社からの助っ人を頼って人手を確保してきた。

しかし、マチの人口減少が進み、従来の手法で働き手を集めるのが難しくなってきていた。同地区を含む小平町の人口は、平成7年に約4900人だったが、10年後には7000人ほど減少。55歳以上の割合が7年に39%だったものが、10年後には46%と、住人の半数近くが高齢者という状態になった。

「高齢化が加速し、限られた働き手しか残っていない。毎年の作業員を確保するのが難しくなってきた。川森部会長は、人手不足に陥りつつある実情を明かす。

働き手が確保できなければ、漁家にとって重要な稚貝の出荷作業に支障をきたす恐れがある。そこで昨年、一軒の漁家が初めて、人材派遣会社を通じて作業員を確保した。

「派遣従業員の手助けがなければ、将来的には立ちゆかなくなっていく。そう指摘する同地区の漁家・氏家均さんは、仙台出身、漁業をするために北海道に移住し、7年前に同地区でホタテ養殖を始めた。

親戚や友人など頼る相手が近くにいない氏家さんは、働き手の確保で壁にぶつかった。だが、4年前に本紙で、水産加工場向けに人材派遣事業をてきぱき展開する札幌の㈱アスクゲートネクサス（有馬忠良社長、電話011・833・8166）の記事を読んだ氏家さんは打開策を思いついた。

同社は旭川や函館、東京など道内外に12支店を置き、物流や製造業者などへの派遣事業を展開。水産関連では加工場に働き手を供給している。

自動車関連の製造業で働いていた経験がある氏家さんは「浜に人材派遣というのは聞いたことはなかったが、製造業では珍しくない違和感はなかった。加工場だけでなく、浜でも活用できると思った」と振り返る。

遠くは福島県からも

そして昨年、同社に連絡し、作業内容や人数、期間などを詰めて契約。同年3月、同社から派遣された4人が稚貝出荷を手伝った。同社は「漁業での派遣スタッフを提供するのは初めて」と話す。

昨年は家さん一軒だけだったが、今年の出荷時期には同地区の全8漁家が同社に依頼した。

派遣されたのは、30～40歳代を中心とした20～50歳代の男性約30人。各支店を通じ、札幌や旭川、岩見沢、苫小牧など道内の都市部を中心に、本州は福島県から集まった。

契約期間中、同社が借り上げた留萌市内のアパートに宿泊、同社所有のマイクロバスで同地区と宿舎間を往復した。

養殖カゴから稚貝を出す仕事、洗浄機に入れる作業、資材の運搬…。漁家の指導を受けながら、オホーツク海など地まきの漁場に放流するための稚貝出荷にあたった。

川森部会長は「以前から頼んでいた建設会社からの助っ人が、今年は確保できなかった。派遣従業員が来てくれて助かった」と話す。氏家さんは「電話一本で、必要な期間中に必要な人数を揃えられるので便利」とサービスを評価する。

人手不足は同地区だけではなく、オホーツク海や噂火湾などの浜でも問題になっている。ある浜では、作業員を確保するのに漁家間で獲得競争となり、賃金を上げながら交渉しているという。

ある養殖漁家は「人不足は深刻。獲得競争で日当が1万円以上につり上がり、経費がふくらむ一方」とため息をつく。

同社は「雇用情勢が悪化する中、都市部では求職者が増加。その一方で漁村など地方では人が足りない。今回の浜への派遣は、両者のニーズがマッチングした形」と認識する。

「マンパワーが必要な現場の要求に貢献していきたい」として、今後も道内各地の浜にサービスを拡大する構えだ。すでに鬼鹿の隣、北るもい漁協協力屋地区でも今春、4人が派遣された。

派遣スタッフには漁業未経験者が多いため、同社では作業の教育システム構築なども検討している。

訂正 6月28日付1面の秋サケ漁獲基準量の表で、「平成21年度」とあるのは、「平成22年度」の誤りでした。

有効求人倍率低迷続き全国で働き手余る

平成20年秋のリーマンショック以降、国内の雇用環境は厳しい状態が続いている。完全失業者は300万人以上に達し、非正規労働者の失業者は、同ショック以降で約28万人に。有効求人倍率も低迷していて、全国に働き手が余っている状況だ。

総務省の労働力調査によると、22年5月現在の全国完全失業者数は、340万人。2年前の同月比で1.3倍に増加した。

20年は200万人台だったが、翌年3月には300万人台。以降は340万人前後で、雇用環境の改善が見られない。

また、厚生労働省が調べた、派遣など非正規労働者の失業者数は、同ショック直後20年10月～今年6月までの累計は27万7674人に上った。

同省が6月末に発表した求職者1人に対する求人数を示す5月の有効求人倍率は0.50倍。20年秋以前は0.8倍以上だったが、景気の落ち込みに伴い低迷が続く。

必要な時だからこそ、必要な人材を。
北海道トップクラスの派遣実績！
短期・長期を問わず、皆様のニーズに合わせた効率的な運用プランをご提案!!
皆様の人員不足等のお悩みを無料相談させて下さい!!
当社が迅速解決させて頂きます!!
まずは気軽にお問い合わせ下さい
ASK OUTSOURCING POWER&TECHNOLOGY
人材派遣の 株式会社 アスクゲートネクサス
0120 0120-987-166 URL http://www.ask-s.co.jp
本　社 札幌市豊平区豊平3条3丁目1-24 TEL 011-833-8166 FAX 011-833-8167
旭川店 旭川市秋月2条2丁目9-3 TEL 0166-49-6661 FAX 0166-49-6662

東京・東北支社：TEL(046)298-3020　釧路支局：TEL(0154)41-4286
東北・北陸支局：TEL(025)381-7338